

# ニュースレター

## ★2007年度定例総会特集号★

本号の目次

会長からのメッセージ

宮部新顧問挨拶

西村新理事挨拶

事務体制

〔講演：高齢者介護こぼれ話〕西村昭徳

〔随想〕「風を読む」 中村智成

〔随想〕「たいへん興味深い話」 比留間英美

〔紀行〕「協会旅行に学ぶ青春18の旅」 立石素子

〔報告〕2007年度 総会

〔報告〕公開講演会（無料）



〔会長からのメッセージ〕 宮本忠

ウグイスが、春を告げる時候になってきました。みなさんいかがお過ごしですか。オセアニアでは初秋というところでしょうか。昨年の協会親善交流の旅は、ゴールドコースト、ブリスベンを中心にレンタカーでニューサウスウェルズ州まで走りました。羊ばかりの印象であった牧場風景があちこちで牛に大転換していました。豪州経済も国際経済の激動の中にあることを肌で感じました。ゴールドコースト近くの幼稚園と老人ホームの訪問は協会旅行では初体験でした。児童、高齢者ともに明るくのびのびしている様子に深い感銘を受けました。州都ブリスベンより世界的観光地ゴールドコーストの方が人口の伸び足が速いようです。我が国も、激しく動いています。「動き」が「発展」に結びついているといいのですが。ともあれ「動じない」生き方をしたいものです。本年度の総会は、3月30日（日）です。あわせて公開講演会（無料）を、三重県人権センター（津市）において開催いたしますどうぞ、ご参集ください。今年の第八回親善交流の旅はニュージーランドです。増田理事を中心に計画をつめています。詳細は総会当日、発表いたします。ご期待ください。

〔新顧問から挨拶〕宮部剛 ジェトロ三重所長

貴協会の2007年度総会が盛大に開催されましたことに、お祝い申し上げます。

私は、日本貿易振興機構（ジェトロ）の三重貿易情報センターの宮部と申します。どうぞよろしく願い申し上げます。

貴協会の総会に初めて参加させて頂きました。前任の山口という者が皆様に大変お世話になったとお聞きしております。私は山口の後任として、2007年の春に当地三重県津のほうに仕事で参りました。山口はジェトロ

08/3/30 第17号

の東京本部のほうに戻りました。ジェットロ三重と皆様の協会とは、数代前の当時の所長が協会の設立に関わらせて頂いた経緯もあり、以来ジェットロ三重の者が顧問としてご一緒させて頂いていると伺っております。私にとって三重県さんははじめてで、こちらのことは、わからないことばかりですが、皆様いろいろご教示頂ければ幸いに存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

オーストラリア・ニュージーランドと三重県の皆さんとの間でこのようなかたちで積極的に交流を図っていらっしゃることは実に素晴らしいことであると思います。大変感銘を受けております。私は両国を訪れたことはございませんが、仕事柄、これまで両国の方と接したことがあります。皆さん大変日本語が堪能であるとの印象をもっています。最近外国の方でも日本語が得意な方が多くなりました。あるオーストラリアの方は、大勢の日本人の前でのご挨拶で愉快的な冗談を巧みに交えながら日本語でお話をされました。あるニュージーランドの方は、

私が最近調子はいかがですか、とお聞きしましたら、これまた流暢な日本語で「貧乏暇なしで・・・」と返事をされました。このごろでは日本でも頻繁には使わないような言い回しを咄嗟に自然と使いこなしていたことが印象に残っております。日本語や日本のことに関心を持って友好的に接して頂いているオーストラリア・ニュージーランドの方々との交流は、深まり広がりやすいのではないかと思います。そうしたなかで、貴協会の皆さんが熱意を持ってオーストラリア・ニュージーランドとの友好、交流にご尽力されていることに対しまして、深く敬意を表します。今後とも皆様の一層の御多幸御健勝を祈念申し上げますとともに、貴協会のますますの御発展を念願致しまして、私の挨拶とさせていただきます。



メルボルン近郊モーニング半島

〔新理事から挨拶〕 西村昭徳

2007年度から、スポーツ・文化・自然・福祉担当理事という大役を拝命し、身の引き締まる思いです。私の大学院時代の恩師でもある宮本会長の補佐役として、学びながら責務を果たしていきたいと思っております。会員の皆様には、ご指導ご協力をよろしくお願ひいたします。

〔2007・8年度事務体制〕

2007年度総会決定により、7および8年度の協会事務体制は以下の通りになりました。

- 1 特に、事務局本部をおかず、各担当役員が自己の事務を行う。
- 2 日常の会議は、eメールで行う。ただし、必要に応じて、会合を開催する。その際、email、電話、ファックスそして郵便やホームページ、会報の重要性を十分認識する。
- 3 2006年から、協会独自のホームページを開設した (<http://www.mieoznz.com/>)

役員およびオフィス担当者 オフィス担当一覧 (注) はグループ・リーダー

## 【総括オフィス・グループ】

会長(宮本忠) 協会秘書(宮本由紀子)  
 副会長(井ノ口輔ひろ) 協会秘書(井ノ口節子; 新設・新任)  
 副会長(小山良一) 会計(西村忠祐) 監査(高増静子)

## 【教育広報オフィス・グループ】

教育、ホームページ (畠山義啓)

会報編集印刷(梶美保・藤山真澄) 管理(米倉芳周)

【事業オフィス・グループ】

親善交流旅行、ショート ロング ステイ (増田陽一)

生活(大野福代) 経済(北出勲) 自然、スポーツ、福祉(西村昭徳；新設・新任)

〔講演：高齢者介護こぼれ話〕西村昭徳

はじめに

私は、介護保険制度が導入された 2000 年に伊勢市議会で教育民生委員会の委員長を務めていた。立場上多くの市民からの高齢者介護に関する切実な悩み相談や要望を受ける機会があり、これは相当深刻な問題であると肌で感じ、危機感を持った。

当初は、民間の介護サービス事業所や施設も少なかったため、2002 年に自ら法人を設立し、介護事業に参入した。2007 年現在 5 つの介護施設の経営と複数の介護事業コンサルタントを行っている。

介護保険制度について

介護保険制度は 3 年毎の見直しとなっており、過去 2 回の制度変更で大変複雑な制度になっている。厚生労働省も走りながら考えているというのが現状ではないか。

現在の介護サービスには、施設サービス(特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養型医療施設)と居宅サービス(通所介護、訪問介護、ショートステイ、通所リハ、特定施設入居者生活介護など)があり、さらに 2006 年からは介護予防サービスと地域密着サービス(小規模多機能居宅介護、夜間対応型訪問介護、認知症対応型共同生活介護など)が加わった。

施設サービスはどこも満床であり、特養においては伊勢市でも入居待機者 1000 名を超える状態である。少子高齢化により介護サービスの需要は今後ますます高くなるはずであるが、厚労省は社会保障費の削減の流れの中で、補助金のカット、療養病床の削減、総量規制、介護報酬改定などを打ち出し、事業者にとって大変厳しい状況になってきている。さらに、介護労働の人材不足をどのように克服していくかも大きな課題である。

介護業界も本格的な淘汰の時代に入ると思われ、厳しい環境の下、事業所ごとの創意工夫が必要となっている。

ウェルフェアの目指す介護

私共の経営する各施設共通の理念は『のんびり・一緒に・楽しみながら』である。

『のんびり』は、大規模施設にありがちな集団ケアにならないように配慮し、画一的でない、その人なりの生活を尊重する意味が込められている。起床・食事・風呂の時間などは出来るだけ個人のペースに合わせるようにし、施設入所ではなく、自分の家にいるような生活を実感していただきたいと願っている。

『一緒に』は、介護職員のみならずご家族、ボランティア、近所の方々との協力関係を築いていくということである。施設に入るとこれまで住んでいた環境から遮断され暮らしていくことになるが、ご家族や友人などの人間関係を切らずに継続していくことが「普通の生活」と考える。

『楽しみながら』は、入居者に楽しんでもらうには、



メルボルン市内の光景

08/30 第17号

介護職員自らも楽しんでないといけないと考える。日々の仕事に「やりがい」や「ゆとり」を持って取り組むことが良い介護に繋がると思う。介護の仕事は精神的にも肉体的にも負担がかかるのでリフレッシュのための福利厚生や研修制度を充実することも大切である。

#### オーストラリアの福祉制度に学ぶ

オーストラリアは、日本と同じ中負担中福祉の高齢者ケア制度であるが、高齢者自身の満足度は世界一と評価されている。その理由としては、高齢者介護に対応する早めの住み替え、行政・民間・ボランティアのバランスの取れた役割分担、低所得者に対する支援制度、効果的な第三者評価制度などが挙げられる。

私も日本で介護保険が導入される2000年に視察に行ったが、学ぶべき点は多くあったと思う。最近では、オーストラリア独自の資格で、認知症ケアの切り札と称される「ダイバーショナルセラピスト」が、日本でも注目されている。オーストラリアで約30年前にダイバーショナルセラピーが始まったといわれ、現在ではほとんどの高齢者施設にこのセラピストが全人ケアの専門家として活躍しているとのことである。

今後もオーストラリア高齢者ケアに期待をし、社内においても現地での視察・研修の機会を設けることにより、介護力の向上に繋げて行きたい。

#### まとめ

介護保険制度の日本の歴史はたかが7年。これからも制度の改正は行われていくだろうが...、制度からの発想では真の地域のニーズは見えない。『生活者』に全ての答えがある。世の中がどう変わろうと生活者や地域からの発想が鍵となる。そして、生活者や地域からの発想が国の制度を動かすと想いを持って行動していきたい。

#### 〔随想〕「風を読む」 中村智成

普段は気付くことが無い風。よほど強いか、風が影響する機会に出くわさないと気にも留めない。風には、陰も形も色もない。私には、そんな風をふと愛しく思う瞬間が毎年ある。暑い暑い夏も過ぎ行き、秋祭りが全国津々浦々で開催され、紅葉もそろそろ見頃を終えようかという晩秋。それは毎年夕闇の中で何の前触れもなく訪れる。凜と冬を告げる風。私は毎年この風を感じる。決して不快ではなく、むしろ心地良い。たまらなく好きだ。私はこの風で冬の到来を感じる。中学生の頃、塾帰りの小学校の校庭で感じて以来、毎年必ずこの風は私をもてなしてくれる。

風は目に見えない。時代にも風がある。故郷にも風がある。年齢にも風がある。先日、新たな風を感じました。



フランダース駅

さる2007年8月25日、神宮のお膝元、伊勢でのこと。宮本三重豪NZ協会会長に誘われて、(株)ウエルフェア代表取締役西村昭徳さんの講演会に伺いました。西村さんには昔から激励をいただくなど、種々お世話になっています。そんな西村さんの姿に風を感じました。1時間足らずのわずかな講演時間ではありましたが、吸い込まれました。福祉に対する課題を明確に示し、自分の殻に留まらず世界に目を向けている。そこに“世界”を感じました。西村さんの人柄から溢れ出る柔らかな風は、私自身の殻に閉じ込められた世界観を切り開くに違いありません。…こんなふうに、風はふと気付くものかも知れない。

風は空気。空気を読むということは人とのふれあいは欠かせない。その人の言葉が何を意図しているのか。

08/3/30 第 17 号

その人がどんな文化に育ち、どんな思想を持ち、私に何を求めているのか。またどのような場所で、相手はどのような発言を私に求めているのか。些細な発言でもグッと印象に残る言葉はそんな空気を読んだ言葉ではないか。これは高等な仕業である。

オーストラリアではどんな風が吹いているのか。ニュージーランドにはどんな風が吹いているのか。国外から見た日本には一体どんな風が吹いているのか。情報ネットワークが多様化した現在、風を読む事は容易なことなのか。あるいは困難なことなのか。遷り変わりの速さに置いていかれる事で不安になるのか。いち早く世間の風を受け止めることが果たして是か。情報に影響され、本物の風から逃げていないか。ともすれば“うっかり”日々を過ごしてしまいがちである。感動を感じることをさえ忘れてしまう。結果を求め、過程を見過ごしてしまう。

時おり足を止め、空を見上げ、佇み、海を眺め、空っぽの風を感じるこの意味はすこぶる大きいようだ。何かを思い立ち、いい仕業が出来そうだから。



騎馬警官

〔随想〕「たいへん興味深い話」 比留間英美

私はJRPS（日本網膜色素変性症協会）の会員です。宮本先生ご夫妻とはJRPS 三重の創立10周年記念のとき、ニュージーランド旅行にご一緒しました。この旅行は、三重オーストラリア・ニュージーランド協会により、企画、案内そして後援されたものでした。三重オーストラリア・ニュージーランド協会とご夫妻のおかげで、視覚障害者の私たちですが、とても素晴らしい旅行をさせていただくことができ本当に感謝しています。お目にかかる機会も少ないのですが、いつもお会いするたびにやさしくお声をかけていただけてうれしく思っています。このたびは伊勢トピアで福祉のお話が聞けるとのお知らせをいただきましたのでおうかがいさせていただきました。我が家も89歳の母をかかえておりますので大変興味深いお話を聞かせていただけた事を感謝いたしています。我が家のことで恐縮ですが、母がひとりだちできなくなってから3年目になります。その間にはデイサービス、ショートステイと利用しながら在宅介護でがんばってきました。とは言ってもほとんどが夫の仕事となってしまう

ます。視覚障害者の妻をもっているためもうしわけないことです。最近になって母に認知症がでてきたので在宅介護が無理になりました。福祉施設のお話がとても参考になりました。それにつけても自分自身にも老後は身近な問題です。とくに視覚障害者の老人福祉施設はあまり知りません、伊賀市にあります盲老人福祉施設梨の木園は訪問させていただきました。私にはやはり一般の老人福祉施設ではかなりむづかしいと思いました。老後を考えるとなんだか心細くなってきます。でも私はあまりクヨクヨしない性格です。残り少なくなりつつある人生を、少しもおろそかにはできません。「見えにくい」目ですが前をしっかりみながら進みたいと思っています。「光陰矢のごとし」といいます。この言葉を、近頃しみじみと身にせまって感じます。

このごろは、毎日が本当にうれしく楽しくありがたく思われます。私は、眼科さんから「網膜色素変性症だ」と知らされ



メルボルン図書館

08/3/30 第17号

た時は「もうこれからの人生は、真っ暗で楽しいことはないだろう」と思っていました。ところがJRPSの患者の会に入ってから今まで目がよかったときよりも楽しいことが私に降って来ました。思いもかけないニュージーランド旅行！それに宮本先生をはじめ私などが近づくこともないような素晴らしい人々とも出会うことができました。後ろからささえてくれそうなやさしい人々との出会い。心豊かになる、人々からの、かぞえきれないような贈り物をいっぱいいただいています。これからも皆様にささえられて楽しい思い出を作っていきたいと思っています。

### 〔紀行〕「協会旅行に学ぶ青春18の旅」 立石素子

私の青春18は遠いとおい昔のことですが、JRの「青春18切符(一日乗り放題)」を利用するのに年齢の制約はありません。私のパートナーまささんは鉄道マニア、国内の鉄道全線に乗車することを目標にしているようです。青春18切符の利用期間は春、夏、冬、年三回それぞれ1ヶ月程、経済的な理由からその期間だけ二人で旅行をします。昨夏は福井県と岐阜県の県境にある人工湖九頭竜湖へ行ってきました。堅田-敦賀(湖西線)、敦賀-福井(北陸本線)、福井-九頭竜湖(越美北線)まで乗車時間三時間半、約180キロ、一日2,300円(鈍行利用の通常料金往復6,520円)の旅は以下のように愉快的なものになりました。

2006年秋、京都敦賀間の直通電車が運行されるようになり北陸が近くに感じられるようになりました。日帰りで新鮮なお魚を食べに、ちょっと温泉に浸かりに、といったことができるようになりました。早速週末に永平寺までの小旅行に利用したところ「満席ちゃいまっせ」。満席どころか満杯です。普段の様子とは違いました。そこで今回は平日に。水筒に用意したモーニングコーヒーを飲みながら琵琶湖の美しい景色を楽しんで敦賀までという思惑は今回も外れ、前回同様いっぱいの乗客。帽子にバックパック、山登りのような、旅行のような、青春18仲間とすぐに分かる。そのいっぱいの車内を眺めてまささんが一言、「18改め81でもええくらいやな！」

敦賀駅では、乗り換え時に、かけっこに勝ち座席を確保、ようやくコーヒーを飲む。勝って当たり前。若くてすみません！

福井に到着。九頭竜湖行きの電車は3、4時間に一本しかありません。たっぴりある待ち時間に駅近くの福井城趾へ。福の井戸(「福井」と呼ばれるようになったいわれとも)や天守閣跡など一部は保存されていましたが大半は福井県庁の建物が占めていました。立派なお堀や石垣、美しい庭を持つ県庁のロビーでまささんが一言、「そのまんま東がいたらもっとええのになあ！」

越美北線九頭竜湖行き一両編成のディーゼル車両も福井を出て暫くはエアコンが効かないほど混雑していましたが、終点に着く頃にはすっかり減り、若者とマニア風の人ばかりになっていました。九頭竜湖駅前の唯一の施設、観光案内所で尋ねたところ、湖へ行く交通手段はなく、レンタサイクルを使った村内観光コースを勧められました。電車は、14時30分頃着き、10分ほどの停車の後折り返して行ってしまうと、次は19時近くまで

ありません。発車時間が迫り、車内に人が消えると広い案内所ががらんとして心細くなりました。私達二人以外は全員が乗ってきた電車で戻っていくことが分かった時は心配で迷いました。でも、その時、他の人達と同じように駅前に降り立ただけで戻っていたなら印象に残る旅にはならなかったことでしょう。五段変速のレンタサイクルで小一時間ほど坂を上り九頭竜湖を見たときの達成感、国民宿舎で新湯(さらゆ)に入り飲んだ生ビールの味、大自然を広い村を観光しているのは二人だけといった優越感を味わったことなどを思い出します。ところが途中、駅の前を通ると若者が一人ベンチに座って本を読んでいる。電車の中で見かけた青



08/3/30 第17号

年だったのでレンタサイクルでの観光を勧めたところ喜んでもらいました。三重オーストラリア・ニュージーランド協会親善交流の旅行で学んだ情報収集と観光案内所の活用方法を実践しながら、私たち流の旅を楽しんでいます。

〔2007年度総会報告〕敬称略

日時 8月25日 土曜 15:00(午後3時)

場所 伊勢市生涯学習センター(イセトピア)

議長:松本正博

以下のことが承認、決定されました。



ビクトリアンアーツセンター

#### 協議事項

第一号議案 新会員承認(会則第4・8・9条)

高木弘二(家族会員;名古屋市) 宮部剛(個人会員;津市)

第二号議案 会則改正(会則第7条)

「自然担当理事」を「協会秘書」と改める。

「文化・スポーツ担当理事」を「文化・スポーツ・自然・福祉担当理事」にあらためる。

第三号議案(会則第7条) 役員改選と欠員役員選任

一 役員改選(留任)

会長(宮本忠) 副会長(井ノ口輔ひろ・小山良一)

理事(畠山義啓・梶美保・米倉芳周・藤山真澄・大野福代、増田陽一、北出勲、西村忠祐、宮本由紀子)

監査(高増静子)

二 欠員補充と新設

井ノ口節子(協会秘書) 西村昭徳(文化・スポーツ・自然・福祉担当理事)

三 顧問新任

ジェット口三重所長(宮部剛)

第四号議案 2006年度決算および2007年度予算

第五号議案

第7回豪NZ親善交流の旅~オーストラリア

第六号議案 高齢者ケア施設へのグループ研修の後援(メルボルン)

第七号議案、その他

総会の開催

講演会(伊勢市)

会報の発行

eメール配信

ホーム・ページの管理・運営

例会の開催など

#### 報告事項

第6回豪NZ親善訪問旅行~ニュージーランド南島 11月24日から12月5日

総会の開催 5月27日 高田短期大学  
 日豪交流年記念事業 市民フォーラム(公開) 高田短期大学にて  
 オーストラリア物産市(四日市オーストラリア館)で資料配布 10月21日、22日  
 駐日NZ大使主催交流会(大阪国際交流センター) 4月25日  
 浜名湖全国日豪協会連合会理事会 7月1日、2日  
 中部日豪協会連絡会 浜名湖 7月1日 次回(2008年)三重で開催予定  
 日NZ協会中部協議会(名古屋)11月18日 次回(2008年)静岡で開催予定  
 例会開催 4月12日

12月17日 フィリップ・グレイ 「三重の高校教育雑感」  
 大野福代 「久しぶりのオーストラリア」

NZへ絵本を贈ろう運動(inch)

会報発行 7月10日 第15号 2007年7月1日 第16号

Eメール配信

ホーム・ページの管理・運営



〔報告〕公開講演会(無料)

主催：三重オーストラリア・ニュージーランド協会

日時：8月25日 土曜 16時(午後4時)から

場所：伊勢市生涯学習センター(イセトピア)

演題：「高齢者介護こぼれ話」(講演内容は、上に掲載しています) 世界遺産 ロイヤルエキジビジョンビル

講演者：西村昭徳さん(有限会社ウエルフェア三重代表。介護つき有料老人ホームくらたやま、グループホームくらたやま オーナー。三重ANZ協会会員)

講演会の後、老人ホーム訪問及び懇親会を開催。



《編集後記》

この三月九日から二十一日まで学生の引率でオーストラリアのトロマナに行ってきました。初めてのオーストラリアです。きれいな海と自然、曇り気象というところで三十七度の猛暑でしたが湿度がないので快適です。最後の二日間はメルボルンの整然とした町並みを散策しました。次は引率ではなくプライベートでいきたいものです。  
 本号は文字だけの号予定でしたがメルボルンで撮った写真を掲載しました。内容と関係なくってごめんなさい。(梶)

<事務連絡>  
 会費未納の方は納入をおねがいします。  
 百五銀行津市役所出張所  
 ミエゴウエヌゼットキョウカイ 82920  
 新たにEメールでの配信をご希望の方  
 & fax059-368-2112 宮本まで。

発行 三重オーストラリア・ニュージーランド協会  
 発行責任者 宮本忠 Tel/Fax 059(368)2112  
 〒510-0226 鈴鹿市岸岡町2626-95  
 HP : http://www.ztv.ne.jp/yosshi/  
 Eメール : ty1005@mecha.ne.jp  
 この会報にある文章・写真の無断掲載はご遠慮下さい。